

ゆめじゅく

2026(令和8)年
4月

〒792-0821 新居浜市瀬戸町 7-30
TEL : 0897-41-5859 (Fax 兼用)
E-mail : seto@city.niihama.lg.jp

4月の予定

★ゆめじゅく編集委員会 3日(金) 13時30分~	★人権のつどい日 11日(土) 10時00分~11時30分	月 日 曜 日 直
★移動図書館青い鳥号 7日(火)・21日(火) 15時10分~15時50分	★ゆめじゅく会総会 23日(木) 19時00分~	
★回転木馬 8日(水) 10時00分~10時30分	★人権・同和教育関係行事 17日(金) 令和8年度 愛隣連定期総会 (北条ふるさと館)	
	★ゆめ喫茶 4月のゆめ喫茶はお休みします。 次回は、5月15日(金)を予定しています。	



お知らせ

いつも、ゆめじゅく会活動にご協力いただき、ありがとうございます。
令和8年度のゆめじゅく会総会を、次のとおり開催します。

各サークルの代表の方は、お忙しいと思いますが、参加のほど
よろしくお願い致します。

日時: 令和8年4月23日(木)
時刻: 19時~20時(予定)
場所: 瀬戸会館 A 室

※尚、都合で出席できない方は、必ず代理の方の出席をお願いします。



ゆめ喫茶の参加費について

いつも、ゆめ喫茶をご利用いただき、誠にありがとうございます。
瀬戸会館では、気軽に集える憩いの場づくりとして「ゆめ喫茶」を実施しております。
最近の食材等の値上がりにより、今後の参加費やメニューについて検討
しており、2月の「ゆめ喫茶」でアンケートにより意見を伺いました。
多くの方が、参加費を値上げしても継続を希望されていることが分かり
ました。このご意見を参考に、
5月より参加費を現行の100円から200円にさせていただきます、
これまで通り実施していきます。これからもよろしくお祈いします。
※「ゆめ喫茶」は、4月はお休みさせていただきます、5月より実施いたします。



人権のつどい日

3月の「人権のつどい日」は、新居浜市役所地域
コミュニティ課国際交流員のレー・ティ・フオン・クイ
さんに、「外国人とともに」と題し、多文化共生社会実
現に向けたお話をしていただきました。

ベトナム出身のクイさんは今回で3回目の来日になります。
現在は国際交流員として母国ベトナムの紹介をはじめ、国際交流や
多文化共生社会の推進などに尽力されています。

そのようなクイさんが、日本・新居浜で暮らすなかで、外国人として
ご自身が感じた「マイクロアグレッション」についてのお話が印象的で
した。

「マイクロアグレッション」とは、無意識の偏見や固定観念から悪意
なく発せられるささいな言動のことです。私たちは、例えば、インド人
という、数学が得意、ITに強いなどという固定観念で見えてしまいがち
ですが、インド人すべてがそうではありません。こういった固定観念から
「私は今、ちゃんと見えているのかな?(本当の私を見てくれているのかな?)」という疑問が頭に浮かんだり、
不快に思ったり、時には傷ついたりすることがあるそうです。

「マイクロアグレッション」をなくすために、私たちにできることとして、クイさんは、言った人の問題だけで
はなく、その場にいる私たち一人ひとりに責任があり、勇気を出して、言うべきことと行動すべきことをやっ
てみよう!とおっしゃられていました。

まとめとして、「多文化共生はたった一言・たった一つの態度から
始まる!」そのためには、自分の発言や行動を見直す、さまざまな人
と交流する、気付いた人が一言声をかけるなどの具体的な行動をし
ていくことなどを示してくださいました。

クイズあり、ペア・トークありと和やかな雰囲気の中にも、大切なこ
とを学ぶよい機会になりました。

ベトナム社会主義共和国



情熱をかたむけるものがありますか？

音楽の神様・モーツァルトに憧れていた一人の子どもがいました。16歳の時には、憧れのモーツァルト(当時30歳)の前でピアノを弾き「みんな、この少年を覚えておき給え」とモーツァルトに言わしめています。さらに数年間、演奏家としての訓練を積み、これからという時に彼を不幸が襲います。「耳鳴り」が始まったのです。やがて、それは段々ひどくなりました。演奏家として「耳が聞こえない」のは致命的です。彼は自暴自棄になり、有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」を書きました。

「この6年間、治る見込みのない病気が私を苦しめている。人々が社交にあけくれる時期、私は人を避け、孤独のうちに生活することを余儀なくされた。誰かが私の横で、遠くの笛を聞いている時、私には何も聞こえない。誰かが羊飼いの歌を聞いているとき、私には何も聞こえない」

彼は、その後どうしたでしょうか？

絶望の淵に突き落とされた彼は、自らの命を絶つことを考えましたが、ギリギリのところまでそれを思いとどまりました。音を失っても音楽への情熱を止められなかったからです。そして、そっと遺書をしまい、自分の人生に向き合いました。

彼の名前は、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

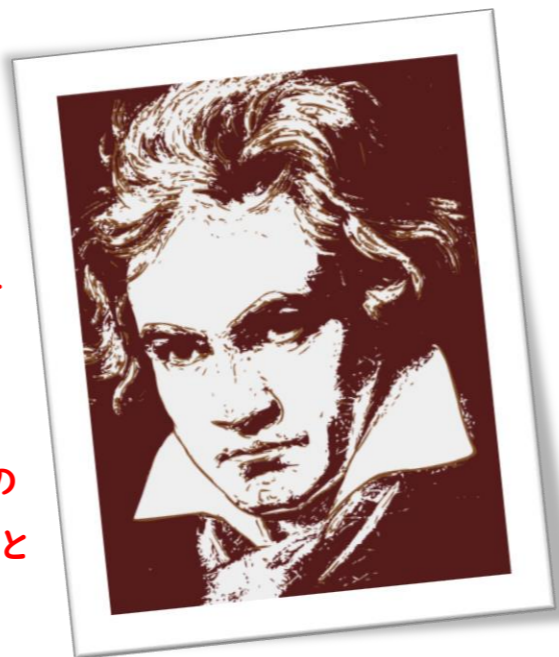
まだ耳が聞こえていた時代につくった交響曲は第1番だけ。その後の交響曲第2番以降は、すべて「耳が聞こえなくなってから」つくったものです。ベートーヴェンは、音の振動を直接感じ取れるピアノをオーダーして作曲を続けていたそうです。鍵盤を押すとハンマーが弦を叩いて音を出すというピアノの仕組みを利用し、ベートーヴェンは口にくわえたタクトをピアノに接触させて歯に振動を感じ取り、以前の記憶と知識を総動員して音符に変換させていたと言われています。つまり、音を聴く代わりに振動を感じ取りながら作曲していたのです。

40歳になる頃には、耳がまったく聞こえなくなったベートーヴェンは、さらに神経性の病気に苦しめられるようになります。様々な苦悩に翻弄されつつ、交響曲第9番といった大作を発表し、ピアノ・ソナタや弦楽4重奏曲等の作品群はベートーヴェンの代表作となりました。

1826年に、肺炎を患ったことに加え、黄疸も併発し、以後は病臥に伏すこととなります。病床の中で、第10番目の交響曲に着手するも、未完のまま、1827年3月26日、肝硬変のため、56歳で波乱に満ちた生涯を閉じました。

ハイリゲンシュタットの遺書の一節には「自分の生命を絶つまでほんの少しの所であった。私を引き留めたのはただ“芸術”だけであった。」と記されています。

彼の生き様は、「どんな逆境も、情熱をかたむけるものがあれば、強い意志で克服することができる。」ということを私たちに教えてくれています。



瀬戸会館利用予定状況

※3月25日現在の予定を記載しております。



月	火	水	木	金	土	日
		1 水美会 楠木クラブ 短歌 空手	2 3B体操 どんぐり レインボーA エストレージャ よさこい	3 健康体操 詩吟(総会) ピンポン フラダンス	4 スクエアダンス	5
6 楠木クラブ 己書道場 べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	7 えんとつ山 つまみ細工 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	8 水美会 楠木クラブ オカリナクラブ 空手	9 どんぐり オカリナ小組 紙バンド レインボーA エストレージャ よさこい	10 健康体操 ピンポン 彩の会 フラダンス	11 人権のつどい ポーセラーツ てんこく	12
13 楠木クラブ すみれ べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	14 えんとつ山 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	15 水美会 楠木クラブ ポーセラーツ 空手	16 3B体操 どんぐり 紙バンド レインボーA エストレージャ よさこい	17 健康体操 ピンポン フラダンス	18 マクラメ	19
20 楠木クラブ べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	21 えんとつ山 つまみ細工 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	22 水美会 楠木クラブ オカリナクラブ 空手	23 3B体操 どんぐり 紙バンド レインボーA ゆめじゅく総会 エストレージャ よさこい	24 健康体操 ピンポン 彩の会 フラダンス	25 ポーセラーツ スクエアダンス	26
27 楠木クラブ すみれ べっぴんさん ピンポン E Dance school fun	28 若葉会 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	29 	30 どんぐり レインボーA エストレージャ よさこい			

瀬戸会館 HP



赤色:午前
青色:午後
黒色:夜間

瀬戸会館では、人権、健康、福祉、生活等の各種相談を行っています。お気軽にご相談ください。